

写真と文 = 荒川正幸



1986年5月号の表紙、モーガンプラス4。爽やかで暖かそうに見えますが、これは内山師匠のテクニックならではの、このときはホントに寒かった。無情でしたな。ちなみに正確には諸行無常です。念のため。

二玄社に入社する前、当時CG編集長であった小林彰太郎さんと副編集長の高島鎮雄さんとで食事を御一緒する機会がありました。その時、小林さんは右手の人差し指を立てながらアタシにこう尋ねてきたんです。

「ところでアラカワ君はいつから会社に来るんだい?」。「はあ……、本当は3月1日からなんですが、なんでも土/日は会社がお休みだそうで、3月3日のひな祭りからです」。そんな“おめでとう”アタシに渴を入れるが如く、小林さんはおっしゃいましたな。

「そうか、だが僕たちは働くんだ。3月1日の2時から“谷田部”があるんだが、君は来る気がありますか?」。

大兄も良くご存知のとおり、“谷田部”とは日

本自動車研究所、通称JARIのことで、クルマの動力性能を計測するところでもあります。もちろん!ここで誰が首を横に振るもんか。

しかし続けて「あ、そうそう2時と言ってもな、夜中の2時だから間違えないように……」。

後々この夜中の“谷田部”こそが家庭内トラブ

入社時に諸行無常の響きあり

ルの原因になったりしたんですが、その話はまた機会がありましたら……。

かくして1986年3月1日午前0時ぴったりに、アタシの初仕事は始まりました。

前日、ご自宅に泊めていただいた上司であり大先輩でもある師匠の内山 勇さん。そして、迎

えにいらっしゃった田辺憲一さんと共に一路“谷田部”に向けて出発いたしました。ちなみにそのとき計測したのは、スーブラ・ツインターボとフェスティバでしたな。

その日は、表紙の撮影にも同行し、師匠の腕を目の当たりにして感激したもんです。クルマはモーガン・プラス4。担当は阪

和明さん(現・自動車部門編集局長)でありました。耳も切れそうな極寒

の箱根をオープンで運転する彼に「大丈夫ですか?」と、となりの席から尋ねたら「平気だよ、まだ手が紫色になってないからね」という言葉が返ってきました。オイオイ……。アタシはこの言葉を20年以上経った今でも忘れることができません。